

令和元年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)  
分担研究報告書

診療ガイドラインの今後の整備の方向性についての研究

分担研究者 福岡 敏雄 (公財) 大原記念倉敷中央医療機構  
倉敷中央病院 総合診療科 主任部長

研究要旨：電子カルテから診療ガイドライン推奨の実施状況を調査するシステム開発をめざし、デモ版を作成し実用性について評価した。多くの電子カルテに対応済みの既存の入力補助ツールから開発を行った。ユーザが入力項目を調整することが可能となり、開発・導入費用が大幅に抑えられ、実施状況に関するデータ収集ツールとして活用できる。

A. 研究目的

医療現場において、診療ガイドラインのアウトカムデータを抽出するための仕組みを検討し、デモ版を作成する。また、今後どのような応用が出来るかについて調査を行う。

B. 研究方法

1) システムの要件選定

診療ガイドラインのアウトカムデータを入力することが可能なアプリケーションについて検討した。

2) システム選定

ACCESSではクエリ設定などが煩雑になることと、ファイルメーカー等の既存のソフトでは維持費用の負担が大きくなるため、固定費がかからないアプリということを優先させ調査した。その結果、ドクターズモバイル社とMedical RE-Engineering社が共同開発を行っているWisdom Cultivator Systemのプラットフォームだと初期費用のみで維持費がかからないため、そちらを用いて今回の開発を行うこととした。

3) 入力項目

①推奨通りの治療を行ったかの是非、

②非遵守理由(テキスト入力)

(倫理面への配慮)

デモ作成のため特に問題なし。

C. 研究結果

1) アプリ開発について

指定した入力項目が格納され、抽出することができることを確認した。また、比較的汎用性が高い作りになっており、ユーザ側で項目の追加も行える汎用的なつくりになっていることを確認した。

2) アプリの発展性について

Wisdom Cultivator Systemは現在、製造販売後調査における有害事象の

入力補助ツールとして企業と共同開発されている。今後、オプション機能を加えることで、特定の病名を付与された患者(あるいは検査結果によって診断名が付与できる患者)に対して事前に準備された項目(アウトカム項目等)の入力を促す形で導入できると思われる。今後は対象疾患、ガイドライン推奨を選定し、電子カルテに実装を検討していく予定である。

D. 考察

診療ガイドラインが整備される中でアウトカム評価の重要性が高まり、現場データを電子カルテから効率よく抽出し集計する仕組みが求められている。従来は格納されにくいガイドライン評価のために重要な項目の入力補助ツールを開発した。プラットフォームの汎用性は高く維持費も抑え、必要な項目を安定して入力・格納しデータベース化することができる。今後は、モデルとなるガイドライン項目を選定し、複数の施設で導入・実装し評価を行いたい。

E. 結論

入力作業の効率化を推進しつつ必要なデータ抽出・集計を支援するアプリを実装させることで診療ガイドラインのアウトカム評価を容易にし現場での利用状況の可視化につながると思われる。

G. 研究発表

1. 論文発表

未発表

2. 学会発表

未発表

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし